プラン・ユースグループ実施

日本国内ユース世代のジェンダー課題調査報告書

2020年7月

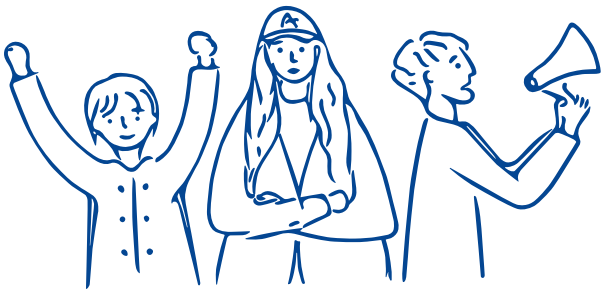
・プラン・ユースグループとは
・オンラインアンケート
・アンケート分析
・調査から見える課題と提言

PLAN YOUTH GROUP
for Plan International



プラン・ユースグループとは

PLAN YOUTH GROUP
for Plan International



プラン・ユースグループとは、子どもの貧困、女の子、女性への差別がない公正な社会を実現するために活動する国際 NGO プラン・インターナショナルのユースグループである。主な活動としては、日本国内のジェンダー課題への啓発活動／アドボカシー活動、団体内のアドバイザリー活動を軸とし、過去にはワークショップや、アンケート調査の実施、企業や東京都への提言、プラン・インターナショナルの組織改善のためのアドバイジングなどを行っている。

2019年度の活動

2019 年度の日本のプラン・ユースグループは、早すぎる妊娠※1、デート DV※2、性的同意※3 という 3 つのジェンダー課題に焦点を当てて活動した。この活動に取り組んだ理由は、ユースグループのメンバーの、「いまだに日本においてジェンダー不平等や偏見からなる性暴力や早すぎる妊娠など、女の子や若い女性が男の子や男性と比べてより大きな影響を受けている問題が存在する」という認識に基づく。平成 29 年度（2017 年度）男女共同参画の調査 ※4 によると、「デート DV」は、20 代の女性の 3 人に 1 人、男性の 6 人に 1 人が経験しているという。また近年は減少しているものの、「早すぎる妊娠」の件数も毎年一定数報告されており、若い女性の権利実現が阻害されている現状がある。さらに日本で「性的同意」の理解が進んでいないこと、曖昧にされてきたことが、望まない妊娠や性被害が生まれるひとつの要因となっていることから、これら 3 つの課題に取り組むことにした。

上記の課題に関し、ユースの認知度や普及度、ユースが考えていることを明らかにするため、アンケートを実施した。以下にアンケートの結果、考察を記述していく。

※1：思春期（10 - 19 歳）の妊娠は若い母親にとって深刻な健康リスクとなるだけでなく、生まれてくる子どもにとってもリスクが高くなる。また、若い母親は、教育を受ける権利など、基本的な権利を行使することも難しくなる。プラン・インターナショナルは、思春期の意図せぬ、望まない妊娠は予防すべきと考えている。

※2：「デート DV」とは、恋人など親密な関係にある、またはあった人から振るわれる暴力のこと。身体的な暴力：殴る、蹴る、ものを投げる、精神的な暴力： ひどい言葉で傷つける、脅す、監視する、無視する、経済的な暴力：お金をたかる、借りたお金を返さない、性的な暴力：キスを強要する、避妊しない、社会的な暴力：頻繁で過剰なメール送信や電話、友だちとの交際制限、過剰な嫉妬。こういった、パートナー間の暴力を「デート DV」という。

※3：「性的同意」とは性的関係をパートナーと持つ際に、互いの行為への積極的意思を確認し合うプロセスのこと。性的同意のない性行為は、多くのヨーロッパ諸国ではレイプであると定められている。

※4：内閣府（2018）「男女間における暴力に関する調査 3. 交際相手からの被害体験」http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/chousa/pdf/h29danjokan-5.pdf「2020 年 6 月 26 日アクセス」

オンラインアンケート（2020.04.20〜05.17）

1. 早すぎる妊娠について
2. デート DV について
3. 性的同意について
4. 3つの課題（早すぎる妊娠、デート DV、性的同意）に共通する質問

15 歳〜24 歳のユース

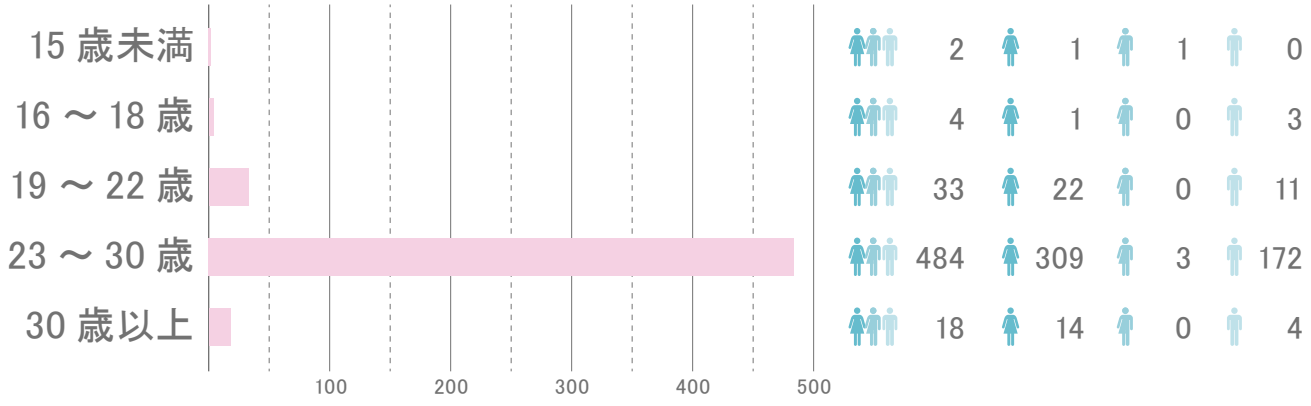
回答者 544 人

348 4 192

1. 早すぎる妊娠について

Q1 何歳からの妊娠が理想だと思うか？

回答者数 541 347 4 190



Q2 周りに早すぎると思われる妊娠をした人はいるか？

回答者数 542 348 4 190

YES 171

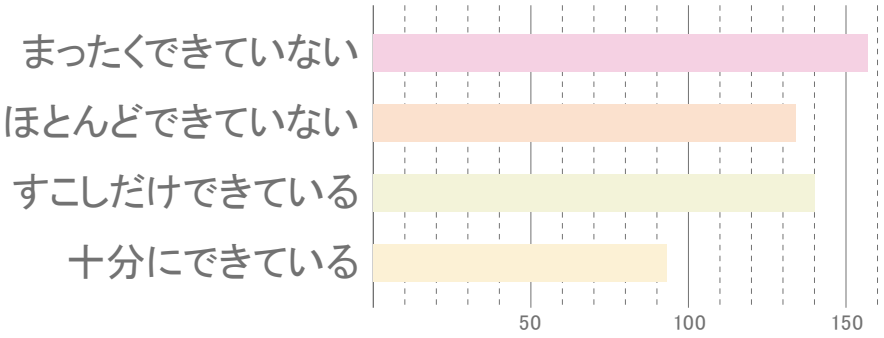
115 1 55

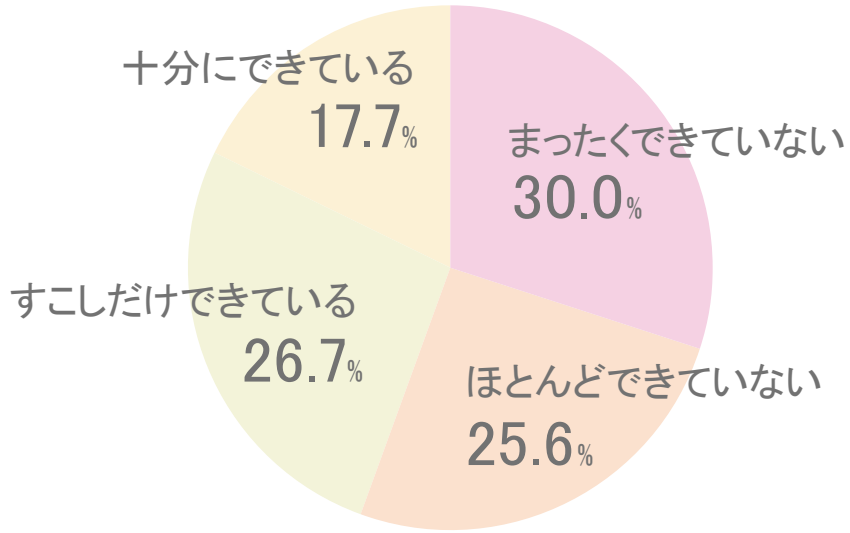
NO 371

233 3 135

Q3 パートナーや家族と避妊や妊娠などについて話し合うことができているか？

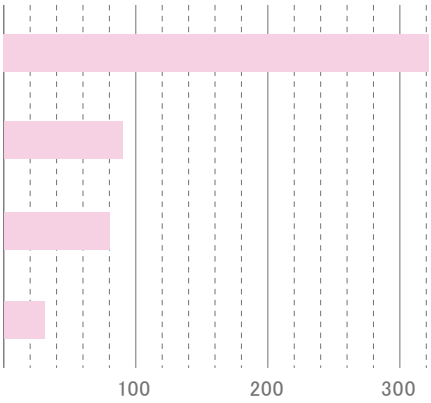
回答者数	524	338	4	182
まったくできていない	157	89	1	67
ほとんどできていない	134	88	1	45
すこしだけできている	140	92	1	47
十分にできている	93	69	1	23





Q4 妊娠をした女子高生にどのようなイメージをもっているか？【複数回答】

回答者数	540	347	4	189
かわいそう、たいへんそう	322	214	2	106
悪いことをしているイメージ（みだら、ふしだらなど）	90	57	1	32
なんとも思わない	80	44	1	35
幸せそう	31	21	1	9



その他の意見

・親も生まれる子どもも心配。

・自由な時間がなくなってしまうため、逃げ出したくなってしまうのではないかと思う。

Q5 あなたあるいは身近な人が望まない妊娠を経験した場合、相談先が思いあたるか？

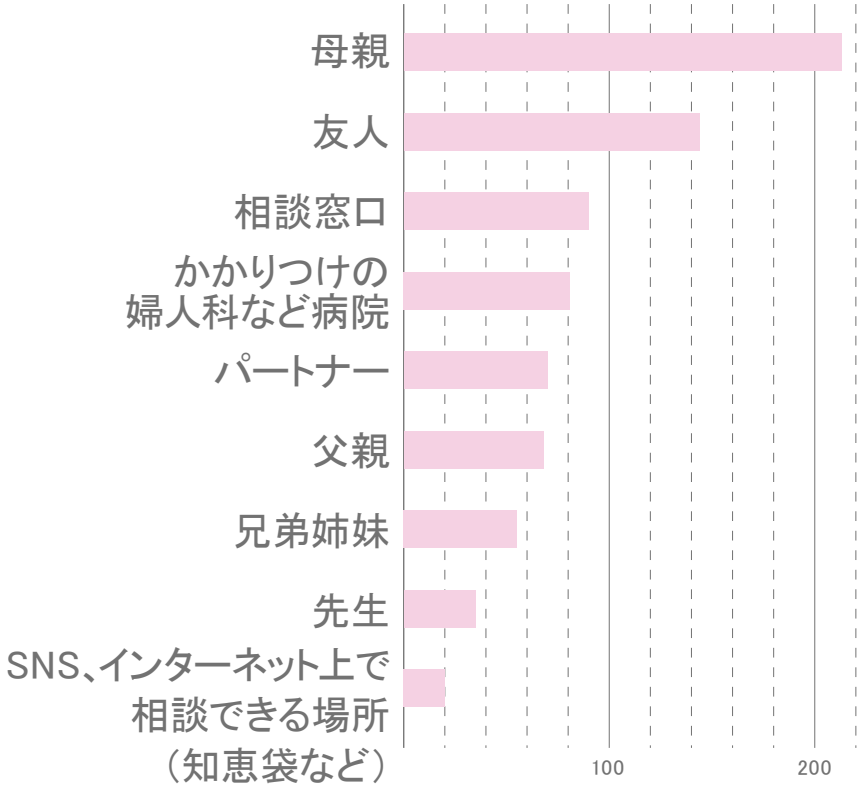
回答者数 543 348 4 191

YES 300	NO 243
208 1 91	140 3 100

Q6 相談先は誰またはどこか？【複数回答】

回答者数 301 208 1 92

※回答者1%以上を抜粋



母親	213	150	0	63
友人	144	114	0	30
相談窓口	90	61	0	29
かかりつけの婦人科など病院	81	60	0	21
パートナー	70	64	0	6
父親	68	23	0	45
兄弟姉妹	55	42	0	13
先生	35	16	1	18
SNS、インターネット上で相談できる場所（知恵袋など）	20	18	0	2

2. デート DV について

Q1 交際相手がいたことがあるか？

回答者数 544 348 4 192

YES 375	NO 169
244 2 129	104 2 63

Q2 交際相手から不快な言動を受けたことがあるか？

回答者数 375 244 2 129

YES 84	NO 291
67 1 16	177 1 113

Q3 答えられる範囲で Q2 はどのようなことだったか？【自由回答】

回答者数 50 42 0 16

19 望まない性的行為を強要された

その他の意見

・モラルハラスメント、容姿の否定、浮気、暴言、蹴られたなど

Q4 Q3 について誰かに相談したか？

回答者数 84 67 1 16

YES 46	NO 38
36 1 9	31 0 7

Q5 交際相手からの身体的もしくは、精神的暴力に関して相談を受けたことがあるか？

回答者数 542 346 4 192

NO 510

325 4 181

YES 32

21 0 11

Q6 Q5 にどのように対応したか？【自由回答】

回答者数 29 18 0 11

・別れるよう促した：12 人

・相談に乗った：11 人

・相談できる団体、病院を勧めた：2 人

その他の意見

・同情した。

・一人暮らしをするように勧めた。

Q7 交際相手から身体的、もしくは精神的に暴力を受けたとき、相談しやすい環境はあるか？

回答者数 536 342 4 190

YES 308

206 1 101

NO 228

136 3 89

Q8 デートDVという言葉を聞いたことがあるか？

回答者数 543 348 4 191

YES 387	NO 156
268 4 115	80 0 76

Q9 デート DV について学校で習ったか？

回答者数 534 339 4 191

YES 227	NO 307
156 0 71	183 4 120

Q10 Q9 に関し具体的にどのようなことを習ったか？【自由回答】

回答者数 194 132 0 62

- 恋愛相手に対するドメスティックバイオレンス暴力、性的暴力、経済的暴力など
- デート中に起こる身体的、精神的な暴力
- 女性だけでなく男性にも被害がでていること
- 会うことの強制や性行為の強制など、パートナーが不快に感じる行動を、相手の思いを考えずすること

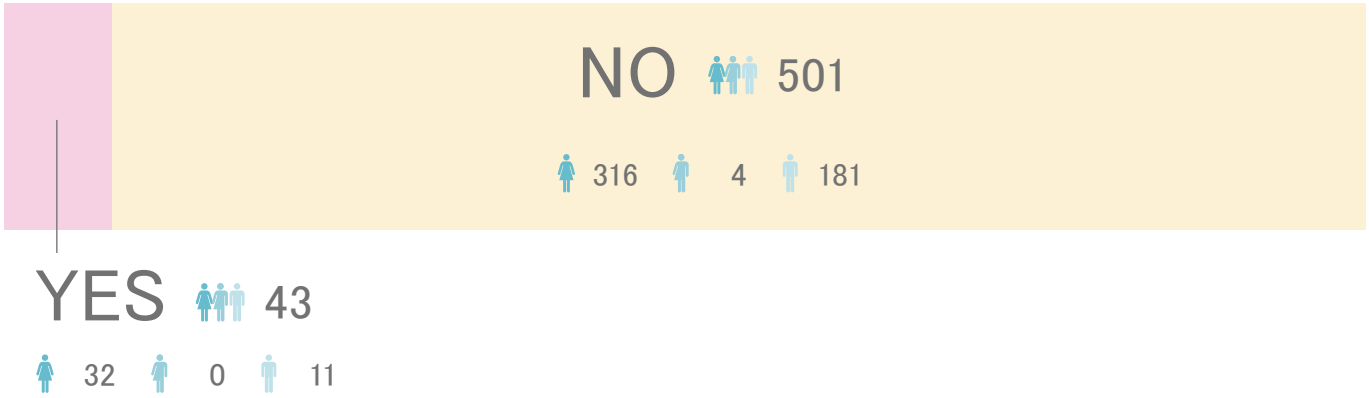
Q11 デートDVとは何か？回答者の定義【自由回答】

回答者数 190 126 0 64

- パートナーに対して身体的、精神的苦痛を強要すること
- 恋人などから精神的、肉体的、性的、経済的に暴力を受けること
- 付き合う男女間の過度な束縛
- 男性が女性に暴力を振るっていること

Q12 デート DV について普段話題に出ることはあるか？

回答者数 544 348 4 192



YES 43

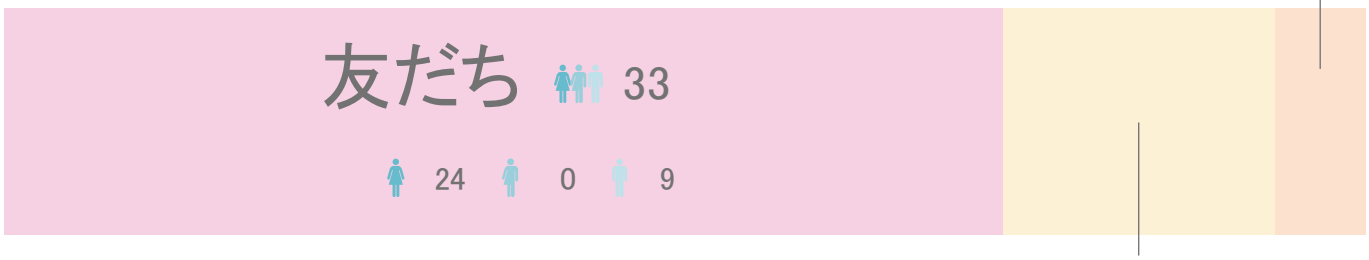
32 0 11

Q13 誰との会話で出てくるか？【複数回答】

回答者数 42 32 0 10

3 0 0

その他 3



家族 9

7 0 2

Q14 予防するためには何が必要か？【自由回答】

回答者数 450 291 2 157

回答の多くは性教育、適切なコミュニケーション、相談できる場所、法改正など

3. 性的同意について

Q1 理想のパートナーとの関係【自由回答】

回答者数 459 295 2 162

※回答のなかで、特に多く書かれたキーワード（75% 以上の人が使用したキーワードを抜粋）

1位 **尊重** 65 54 0 11
「お互いを尊重しあえて、支え合える関係」など

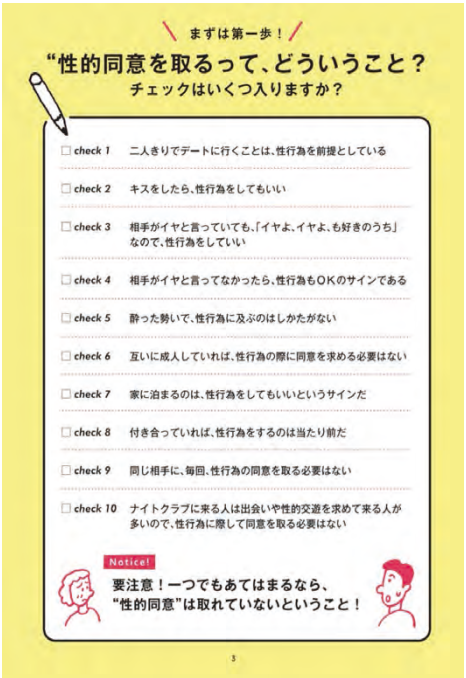
2位 **尊敬** 57 44 0 13
「お互い尊敬し合い、話し合いできる関係」など

3位 **信頼** 44 30 0 14
「お互いに信頼関係が築きあえている」など

Q2 性的同意を取るとはどういうことか？【複数回答】

回答者数 526 339 3 184

※Q2 は、ユースにも分かりやすいことから、京都市男女共同参画推進協会・ジェネシスが作成したチェックリスト※5（下参照）を参考に作成した。
このリストの項目にひとつでもチェックが入る場合は、性的同意は取れていないと定義した。
以下、回答者の 10%以上が選択した回答を抜粋。



家に泊まるのは、性行為をしてもいいというサインだ
55 35 0 21

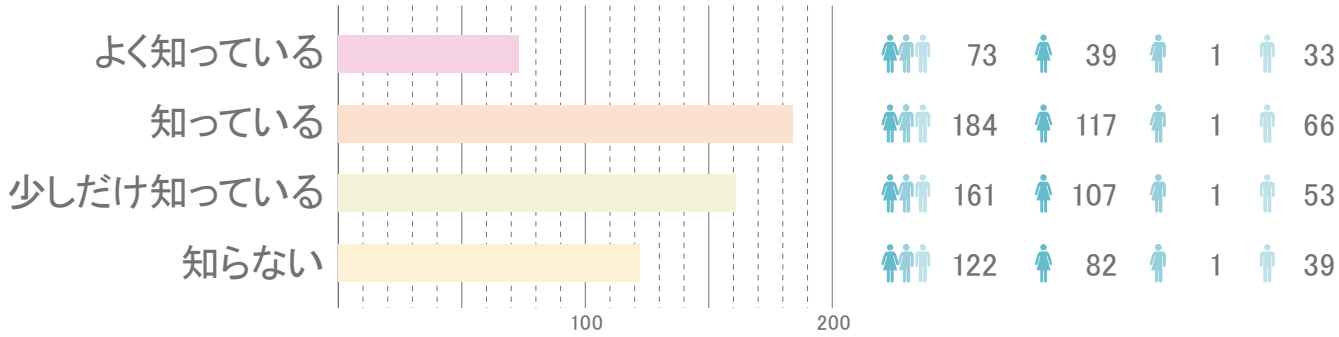
付き合っていれば、性行為をするのは当たり前だ
89 57 0 32

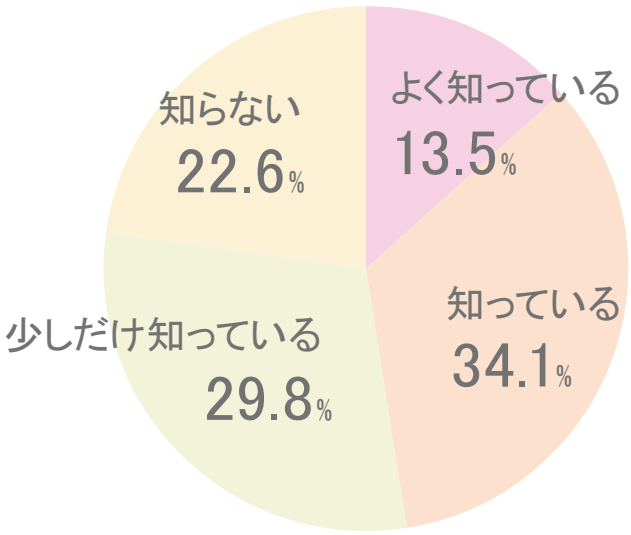
この中に性的同意であるものはない
368 231 2 135

※5：京都市男女共同参画推進協会・ジェネシス（2018）ジェンダーハンドブック『必ず知ってほしい、とても大切なこと。性的同意』https://www.wings-kyoto.jp/docs/association_GH1808「2020 年 6 月 26 日アクセス」

Q3 性的同意への認知

回答者数 540 345 4 191





Q4 性的同意について知った場所、機会・媒体【複数回答】

回答者数 409 256 3 150

※回答者の 30% 以上が選択したものを抜粋。

高校の授業

166 102 0 64

中学校の授業

152 83 2 67

インターネット

132 83 1 48

Q5 回答者による性的同意の解釈【自由回答】

回答者数 311 194 0 117

- 性的同意を性的行為前に取るものと答えた人が最多
- パートナーとの行為全般、パートナーを尊重し良い関係を築くためのものなど、広く解釈した意見も上記に次いで多くみられる
- 明らかに定義を異なる解釈(「感染症とアレルギーの確認」など)が複数みられる

Q6 性的同意を実践しようと思うか？

回答者数 540 344 4 192

YES 503 325 4 174

性的同意を実践している、またはしようとしている

NO 37 19 3 18

実践しようとは思わない

Q7 なぜ実践しようと思うか？【複数回答】

回答者数 503 325 4 174

※回答者 14% 以上が選択したものを抜粋

相手の心と体を尊重するため

433 285 3 145

相手の気持ちを知りたいから

224 132 3 89

習慣として行う

74 49 1 24

取らなければいけないと教わったから

73 48 0 25

Q8 性的同意を行う上で感じる壁【複数回答】

回答者数 430 277 4 149

※回答者 10% 以上が選択したものを抜粋

恥ずかしさ

255 155 2 98

教わっていないから

42 33 0 9

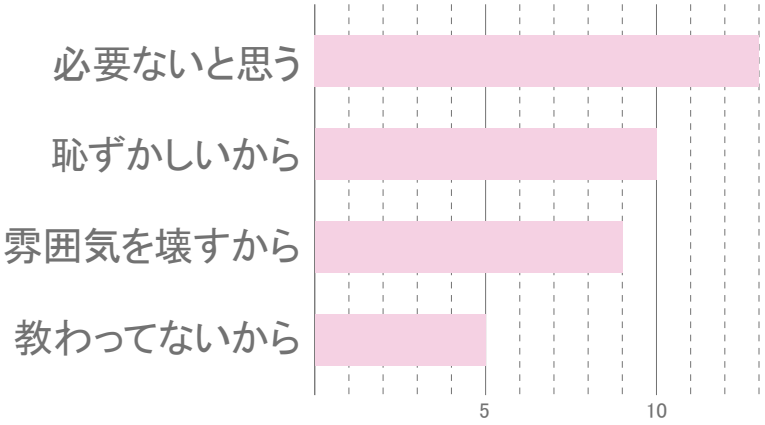
雰囲気を壊すから

220 134 2 73

Q9 性的同意を取らない理由【複数回答】

回答者数 33 17 0 16

※回答者 14% 以上が選択したものを抜粋



13 7 0 6

10 3 0 7

9 5 0 4

5 2 0 3

Q10 性的同意を取りやすくするために個人ができるアクション【自由回答】

回答者数 349 213 2 134

・パートナー間でのやり取り「なんでも素直に話せる関係をつくる」
（7割が性的同意について話し合える信頼関係を築くことが必要と感じている）

・周りの人と性的同意について話す、関連するワークショップに参加するなど
（性的同意の重要性について「知る」以上に、同意を「実行する」難しさがある）

4. 3つの課題（早すぎる妊娠、デート DV、性的同意）に共通する質問

Q1 早すぎる妊娠、デート DV、性的同意などのジェンダー課題を解決する際、改善すべき項目は何だと思いますか？【複数回答】

回答者数 544 348 4 192

教育 489 318 2 169

メディア 287 203 1 83

その他 13 4 1 8

Q2 Q1 のメディアにチェックを入れた方にお聞きします。メディアに求めることはどのようなことですか？【複数回答】

回答者数 303 214 2 87

3つの課題の存在を周知すること

236 165 0 71

3つの課題の解決策を示すこと

182 129 1 52

早すぎる妊娠を助長するような表現の廃止

114 98 1 20

デート DV を助長するような表現の廃止

129 103 0 26

性的同意を取らないことを助長するような表現の廃止

137 109 0 28

Q3 Q1 の教育にチェックを入れた方にお聞きします。教育に求めることはどのようなことですか？【複数回答】

回答者数 478 311 2 165

3つの課題の存在を周知すること

365 237 0 128

3つの課題の解決策を示すこと

268 181 1 86

3つの課題を学ぶ機会をつくる

398 272 1 125

その他の意見

- 教える側が恥ずかしがらない。
- 男女別で教えないこと。
- 初等教育からパートナーシップ教育をすること。

Q4 その他にチェックを入れた方にお聞きします。求めることはどのようなことですか？【自由回答】

回答者数 47 26 0 21

- 家庭での教育が重要
- なんでも話せる親子関係を構築すべき
- 日々の会話で取りあげるなど

Q5 早すぎる妊娠、デート DV などを避け、性的同意について話し合えるパートナーとの理想的な関係のために必要なことは何だと思いますか？【自由回答】

回答者数 535 340 4 191

- どんなことでも言い合える関係性
- 信頼関係
- 尊重し合う気持ち
- 性教育
- 対等な関係
- 信用 など

アンケート分析

1. 早すぎる妊娠について
2. デート DV について
3. 性的同意について

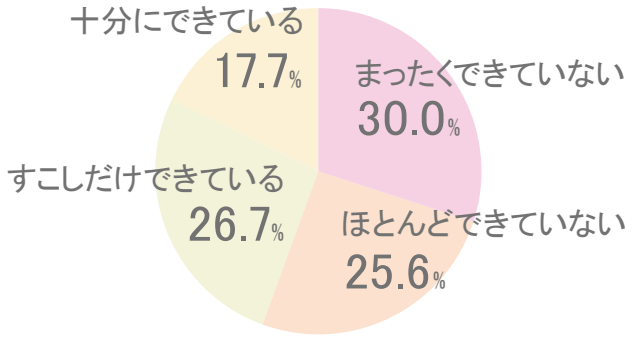
1. 早すぎる妊娠について

質問「妊娠した女子高生に対し、どのようなイメージを持っているか？」に対し、60%の人（女性回答者の 61%、男性回答者の 56%）が「かわいそう、大変そう」といったイメージを持っていることがわかった。また、31%（女性回答者の 33%、男性回答者の 28%）の人が「早すぎる妊娠をした人のことを知っている」と答えていることから、同世代であるユースはこの問題をある程度、身近に捉えていることが推察できる。

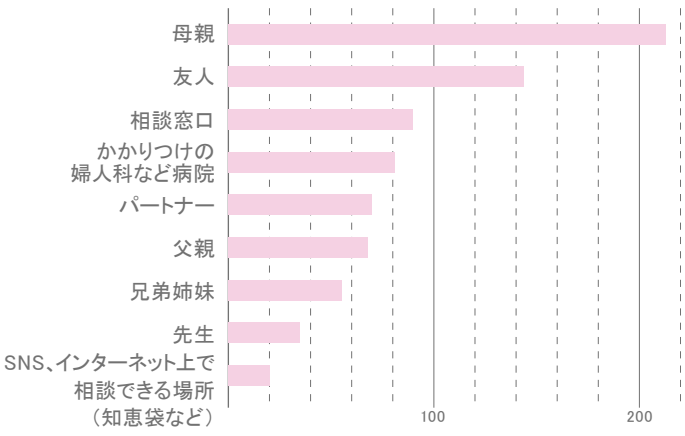
日頃から親やパートナーと避妊や妊娠について話し合いが出来ていれば、妊娠したときに相談が受けやすいが今回行なったアンケートでは、「パートナーや家族に避妊や妊娠について話すことができているか？」との質問に対し、「まったくできていない」と答えた人が 30%（女性回答者の 26%、男性回答者の 37%）を占め、「少ししかできていない」と合わせると 56%（女性回答者の 52%、男性回答者の 62%）であり、話し合いの土台ができていないことが懸念される。

加えて、「早すぎる妊娠を経験した場合、どこに相談するか？」（複数回答可）という質問には、相談先として「母親」を選ぶ人が 70%（女性回答者の 72%、男性回答者の 68%）と一番多く、「相談窓口」を選ぶ人は 29%（女性回答者の 29%、男性回答者の 31%）と少ないことがわかった。また、父親に相談すると回答したのは 22%（女性回答者の 11%、男性回答者の 48%）であり、少なさが目立ったが、男性は父親に相談する傾向があり、同性同士のほうが相談しやすい傾向が見て取れる。

パートナーや家族に避妊や妊娠について
話すことができているか？



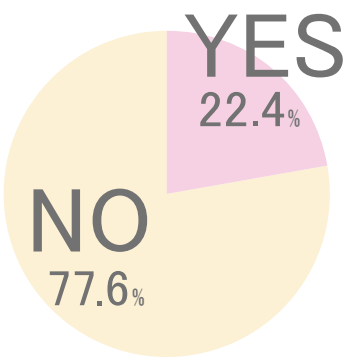
早すぎる妊娠をした場合、誰またはどこに相談しますか？



2. デート DV について

「交際相手がいる、またはいたことがある」と答えた人のうち、22%（女性回答者の 27%、男性回答者の 12%）の回答者が、「交際相手から不快な言動を受けたことがある」と回答している。内容は多くは性行為の強要、暴言などであった。男女別データからは、男性に比べて、デート DV を受けている女性が多い傾向が見られる。

交際相手から不快な言動を
受けたことがありますか？



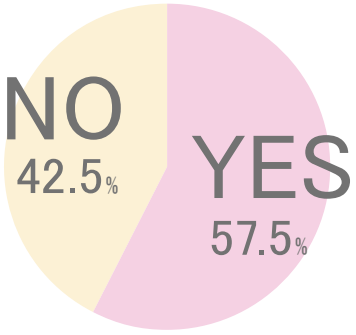
デート DV という言葉を認知している人は 71%（女性回答者の 77%、男性回答者の 60%）で、「学校でデート DV について習ったことがある」と回答した人は、42%（女性回答者の 46%、男性回答者の 37%）であった。学校で習う機会があった人は、男女ともに半数未満であり、言葉の認知について男性のほうが低い結果となった。男女別の教育カリキュラムのため、あるいは男性はデート DV に関する啓発を受ける可能性が低いことが推察される。

「デート DV について話題に出ることがある」と答えた人が 8%という結果から、デート DV はユース世代にとって日常的な話題になりにくいことが分かった。「交際相手から身体的、もしくは精神的に暴力を受けたときに相談しやすい環境がない」と答えた人は 43%（女性回答者の 40%、男性回答者の 46%）にのぼり、ユースにとって気軽に相談できる方法や場所が限定的である可能性を示唆している。男女別データから、男性はより気軽に相談できる環境がないと考えている傾向がある。相談先を知らない、あるいはこうした問題を相談すべきではないという規範を背景にしている可能性がある。

学校などで教えられることにより徐々に認識が高まっている一方で、暴力の定義が曖昧であり、暴力を身体的や性的なものと定義している人が多く、精神的、社会的、経済的な暴力まで認知していない人が見受けられた。また、都道府県によって性教育、道徳教育のカリキュラム内容が統一されておらず、一部の私立学校などでは先進的な取り組みもみられるためか、回答者による認知のバラつきが際立った。

教育の現場における改革に加え、デート DV 被害者を救いこれからの被害を予防するためには実行性のある法整備が必要だ。2001 年に施行された「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（DV 防止法）は 2013 年に改正され、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」となった。これにより、新たに交際相手からの暴力も刑罰の対象となったが、「生活の本拠をともにする」交際相手もしくは元交際相手に限られる。現行の法律では、「同居していないパートナー間でのデート DV」は法の対象ではない。さらに、相談者による相談から保護命令などが効力を発揮するまでに時間や手間がかかり、情報提供や通報も努力義務に留まっている。そのため法適用範囲の拡大と迅速で強制力のある措置が必要である。

交際相手から身体的、もしくは精神的に暴力を
受けた際に相談しやすい環境はありますか？

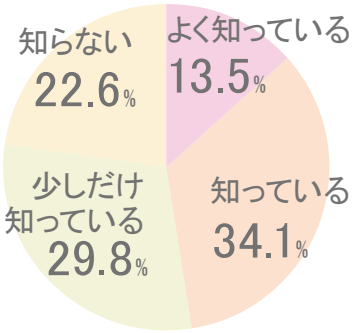


3. 性的同意について

アンケート調査で「性的同意とは何か知らない」と答えた人は 23%（女性回答者の 24%、男性回答者の 20%）だった。

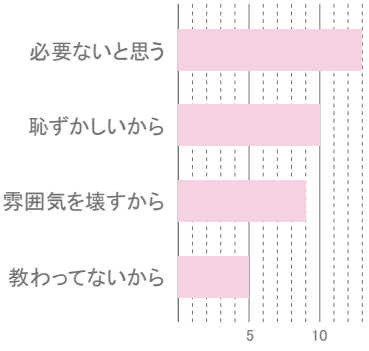
性的同意について、「中学校・高校の授業」で学んだと回答した人が 77%（女性回答者の 72%、男性回答者の 87%）で、多くの人が学ぶ機会があることが明らかになった。しかし、「家に泊まるのは、性行為をしてもいいというサインだ 」は 10% （女性回答者 10%、男性回答者 11%）、「付き合っていれば、性行為をするのは当たり前だ」は 16%（女性回答者 16%、男性回答者 17%）などの回答が目立ち、誤った解釈をしていることが見受けられた。他にも、「キスをする、クラブへ行く、いやと言わないなどの言動が、性行為をしても良いというサインである」という考えを持っている人が、いまだに多いことがわかった。

性的同意とはどのようなものか
知っていますか？



アンケートで性的同意を取るときに感じる難しさや、「同意を取りたくない」と答えた人に、その理由を尋ねると、「恥ずかしさ」が 58% （女性回答者 55%、男性回答者 67%）でもっとも多く挙げられ、性について話すことへのタブー意識が見受けられると考える。性的同意を取りやすくするために個人ができるアクションを聞いたところ、「パートナー間の信頼関係」や「同意について話題に挙げること」を必要としていた。同意を取ることが重要だとわかっていても、「性的同意」を話題にすることが恥ずかしいという認識を持っているため、実行に移しにくいようだ。パートナー間で性的同意をジェスチャーや合図を使って行うという回答がでたことも、同意をあからさまに取ることや、問題にあげることの難しさを物語っている。

性的同意を取らない、取ろうと
思わない場合なぜですか？



「早すぎる妊娠、デート DV、性的同意などのジェンダー課題を解決するために、改善すべき点は何だと思いますか？」という質問には、「教育が重要」と答えた人が回答者の 89%（女性回答者の 91%、男性回答者の 88%）を占めたことから、教育を通して性の問題を学ぶことを多くの人が求めていることがわかる。すでに学校教育を通して「性的同意」について学んだ人であっても、性的同意を不明瞭に捉えており、実際に性的同意を取る場面では、難しさを抱えていることがわかる。

一方、問題解決にあたって「メディアが重要」と回答した人は 52%（女性回答者の 58%、男性回答者の 43%）に及んだ。そしてその回答者の 45%（女性回答者の 50%、男性回答者の 29%）が「性的同意を取らないことを助長する表現を廃止すべきだ」と答えたことから、性行為をする前の雰囲気を大切にするようなドラマの表現などをはじめメディアから強い影響を受けていることを示唆している。また男女別データから女性の半数が表現の規制を望んでいる一方、男性は 3 割弱とメディア表現の規制を望んでおらず、性的同意の課題そのものに対し認識の不足がうかがえる。また同時に 76%（女性回答者の 76%、男性回答者の 81%）が「性的同意の存在を周知すること」を求めていることから、この課題をメディアで取りあげることによって、性的同意へのハードルが低下し、理解が広がることが期待される。

調査から見える課題と提言

早すぎる妊娠、デート DV、性的同意に関するアンケート調査、他団体へのインタビューの実施を経て、以下のような課題と解決のために必要なことが見えてきた。

課題①

タブー意識：ジェンダー課題について自由に語れる場が不足している。

提言：ユース世代が安心して自由に語り合うことができる場所、プラットフォームやSNSサービスなどが必要。

課題②

教育の質的格差：(1) 3 つのジェンダー課題に対する適切な知識の普及がなされていない。
(2)自分ごととして課題を捉えられるような教育カリキュラムが普及していない。

提言：デート DV、性的同意に関する知識の格差、予防・実践をサポートできる教育機会の拡充を。
特にデート DV の認知度には男女差があり、特に男の子と男性への啓発を強める必要がある。

課題③

支援の不十分さ：相談機関は認知されているが、いまだユースにとって遠い存在である。

提言：ユース世代が相談しやすい環境整備をしてほしい。
相談機関やサービスのあり方にユースの意見を積極的に取り入れていくことが重要。

課題④

メディアの役割：メディアによってジェンダー規範の固定化に大きな影響をおよぼしている。

提言：3 つの課題についてメディアで発信し、問題提起をしてほしい。
固定観念を助長させない表現を意識して番組制作をしていくことが重要。

考察

アンケート結果から、デート DV、性的同意について学校で学習している回答者は一定数いるにも拘わらず、知識に差が生じていたり、当事者性を持てずにいることや、タブー意識を払しょくできていないという現状が見えた。課題を解決していくためには 3 つの課題の正しい知識や実践を前提とした教育を普及させていくとともに、教育の質的格差を埋めていくことが重要である。また、3 つの課題についてメディアを通じて発信、問題提起していくことによって、タブー意識の払拭や、さらなる議論の展開につながっていく。

デート DV 被害の相談先として外部の相談窓口は優先順位が低いことから、ユース世代にとって身近に感じられる相談窓口の周知と拡充が必要である。現在の DV 防止法は強制力が弱く、適用となる対象者の範囲も狭いということや、法律が効力を発揮するまで時間と手間を要する。こうしたことから誰ひとり取り残さない社会作りへ向け、法の適用範囲を改正と迅速な対応が必要である。

上記に加え、タブーや恥ずかしさを超え、ジェンダー課題について安心して意見を交わせる場所がまだまだ少ないということも明らかになった。今後プラン・ユースグループの活動においても、ジェンダー課題について自由に語り、学び合い、課題解決を議論する場を設けていきたい。

最後に、プラン・ユースグループと同じ課題に取り組む創価大学の Believe Soka のメンバーに謝意を表する。インタビューを通じた意見交換や学び合いは、この調査結果の分析に大いに役立った。

報告書執筆者・作成者

早すぎる妊娠班：石田、佐々木、佐藤、庄山、中村、米田

デート DV 班：石原、大崎、東方、中山

性的同意班：岩佐、土田、永富、渡辺

他団体へのインタビュー：石田、石原、東方

全体編集：佐藤、土田

参考文献

安達知子（2018）「性犯罪・性暴力被害者への支援」～ 2018 年度ワンストップ支援センター調査を踏まえて～
http://www.jaog.or.jp/wp/wp-content/uploads/2018/11/20181114-125.pdf「2020 年 6 月 26 日アクセス」

京都市男女共同参画推進協会・ジェネシス（2018）ジェンダーハンドブック『必ず知ってほしい、とても大切なこと。性的同意』
https://www.wings-kyoto.jp/docs/association_GH1808「2020 年 6 月 26 日アクセス」

厚生労働省（2017）「人口動体統計（確定数）の概況 / 第 4 表 母の年齢（5 歳階級）・出生順位別にみた出生数」
https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei17/dl/08_h4.pdf「2020 年 6 月 26 日アクセス」

内閣府男女共同参画局（2018）
「男女間における暴力に関する調査報告書」
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/e-vaw/chousa/pdf/h29danjokan-12.pdf「2020 年 6 月 26 日アクセス」

認定 NPO 法人エンパワーメント神奈川（2017）「デート DV 白書 VOL.5」
https://notalone-ddv.org/wp-content/uploads/2018/01/ddv_hakusho_vol5.pdf「2020 年 6 月 26 日アクセス」

プラン・インターナショナル「性と生殖に関する健康と権利に対するプラン・インターナショナルの方針」
https://www.plan-international.jp/about/pdf/190711_srhr_jp.pdf「2020 年 6 月 26 日アクセス」

文部科学省（2018）「妊娠した生徒への対応等について（資料）」
http://www.gender.go.jp/kaigi/senmon/jyuuten_houshin/sidai/pdf/jyu13-04-1.pdf「2020 年 6 月 26 日アクセス」

本報告書に関するお問い合わせ

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン　アドボカシーチーム
HP：www.plan-international.jp
Tel：03-5481-3533
Email：advocacy@plan-international.jp